

「第 18 回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和 4 年 10 月 25 日（火） 14:00～16:00

本庁舎 6 階 第 2 委員会室

1 出席者

1	間野 義之（学識経験者）	12	加賀美 秋彦（新宿未来創造財団事務局長）
2	今泉 清隆（区体育協会）	13	高橋 美由紀（生涯学習スポーツ課長）
3	橋本 純（区スポーツ推進委員協議会）	14	神崎 章（新宿未来創造財団等担当課長）
4	金子 和子（区レクリエーション協会）	15	稲川 訓子（障害者福祉課長）
5	村上 光一（区高齢者クラブ連合会）	16	袴田 雅夫（地域包括ケア推進課長）
6	徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）	17	徳永 創（子ども家庭課長）
7	大嶋 英二（区青少年育成委員会）	18	向 隆志（健康政策課長）
8	武内 隆則（区小学校 PTA 連合会）	19	小谷 武彦（みどり公園課長）
9	石原 留理（区中学校 PTA 協議会）	20	齊藤 正之（教育調整課長）
10	藤原 千里（公募委員）		林 政至（教育支援課教育活動支援係）
11	小柳 智史（スポーツ関連事業者）		

欠席者 2名

田中 稔（区町会連合会）

関口 美緒（公募委員）

机上配付

資料 1 スポーツ環境会議設置要綱

資料 2 スポーツ環境会議委員名簿

資料 3 区レクリエーション協会からの情報提供「新宿区レクリエーション・フォーラム 2022」

資料 4 教育支援課からの情報提供

「部活動運営を通じで輝く生徒達を支える環境の充実（部活動支援の一部民営委託化）」

2 事務局

新宿区 地域振興部 生涯学習スポーツ課

3 会議内容

（1）開会

（2）生涯学習スポーツ課長あいさつ

本日はお忙しい中、第 18 回スポーツ環境会議にご出席いただき、感謝申し上げます。

スポーツ環境会議は、令和 3 年度は新型コロナウイルスの関係で、1 回のみ、書面開催でしか開催

できなかった。令和3年度に生涯学習スポーツ課に着任してから、なかなか思うようにイベントもできずにいたが、今年度に入り、徐々に通常通りに行うことができている。本日もこうして対面での開催ができることを大変嬉しく思う。本日は限られた時間ではあるが、今後のスポーツ環境の整備、またはスポーツ振興について意見交換ができればと思う。

今般の新型コロナウイルス感染症の影響で、スポーツ施設の休館を余儀なくされ、イベント等も中止や延期が続く中で、皆様も色々ご苦労されていることかと思う。そういった状況も踏まえて、このスポーツ環境会議では、皆様から忌憚のないご意見を頂きたい。

(3) 座長の選出

金子委員が座長に選出された。

(4) スポーツ環境や活動に関する現状報告及び意見交換（要旨）

ア 各団体・委員からの報告

・区体育協会

コロナになってから、体育協会は全然活動ができなかった。2022年になり、区民総合体育大会においては、開催ができなかった団体は合気道と少林寺拳法のみで、ほかの団体は久しぶりに催行ができている。コロナのため、団体として動けていなかったのは、協会としては切なく感じていた。

いろいろな団体の話を聞くと、体育協会も高齢化しており、コロナの間に動いていなかったことにより、急に今出ていこうとしても、そのまま動けなくなってしまい、サークルの維持に不安を持っているという団体も多くある。やはり、日常的に体を動かしていないとだめだと実感している。是非とも、スポーツは大事であるということを再認識していただき、各連盟、協会の運営に取り組んでいきたいと思っている。

・区スポーツ推進委員協議会

スポーツ推進委員も同じように、地域での活動はほとんどできていなかった。今年度、スポーツ推進委員は37名で、10地区に分かれて活動をしている。定例会は、リモートを活用しながら行っている状況。

東京2020大会を踏まえてどうやってレガシーを継承していくか、地域のスポーツ実施率をあげていくか、スポーツが皆様の健康、長寿に役立っていくものであると、スポーツの力を信じている。障害のある方も含めて、レク協とも協力しながら活動をしていきたいと改めて決意を新たにしている。場所を提供していただいている小中学校と連携しながら、ウィズコロナのなかで、体を動かして楽しめるように、さらに活動を続けていきたい。スポーツをやりたくてもできない人や、障害がある方などに対して、どうやってスポーツを広めていけるかという課題はあるが、皆さんと一緒に考えていければと思っている。

・区高齢者クラブ連合会

新宿区全域において、多くの高齢者は、この2年半の間に体が弱ってしまったという声が昨年より非常に多い。外でやるスポーツであれば大丈夫ではないかという各会長さんからのご意見もあり、高齢者クラブでは屋外スポーツとしてはグラウンドゴルフを戸山公園で行っている。通常は

270-280名ほどの大所帯で行うが、それだと密になるため、団体戦を6名から5名に減らし、各スポーツ委員にお願いして、消毒などの感染対策の準備をし、開催を英断した。コロナ対策がとて大変であった。いままでは到着順に入場することができたが、ゲートをひとつにして、5人揃ってからの一括エントリーとし、検温、消毒、受付をする流れにした。ただ、なかなか5人が揃わないグループがずっと待つことになり帰ってしまったチームもあったが、非常に好評であった。高齢者は自分たちで何かを始めることがなかなか難しいため、我々のようなスポーツ部による活動の組み立てによって開催ができてよかった。今年は5月・10月にグラウンドゴルフ、12月はわなげ大会を新宿スポーツセンターで行う予定。いまのところはうまくいっていると思う。

そのなかでひとつ問題がある。港区や中央区ではポッチャを盛んに行っているが、新宿区の高齢者クラブでは、地区によってやっているところとやっていないところがある状況。これからポッチャを広めていきたいと思っているが、ポッチャを知っている方が少ない。また器具を買ってもやる場所がない、またはセッティングができないということで、現在は頓挫している。どうすれば新しい競技をうまく進めていけるかが課題。なんとかポッチャを広めたいと思っているのでアドバイスがあればいただきたい。

・区障害者団体連絡協議会

障害者の方は、コロナの間で実際に活動ができなくなってしまった方がたくさんいらっしゃる。もともと生活習慣の中で、小さいころから家族の協力のもとで活動を行ってきた方々が、コロナ禍においてできなくなり、それが習慣となってしまう、それを元に戻すのがすごく大変だという方々が多い。また、ご高齢のご家族と暮らすご家庭は、お子さんからの感染を恐れ、外に出るのを控えるなど、家族のほうでストップをかけていたケースも見られた。この状況をどのように打破するかが今も課題。移動についてはご家族のご協力が必要であったり、福祉サービスもあるが、そのサービスをなかなか使わない方もいらっしゃる。再開に当たりどのように取り組んでいけばよいか悩んでいる。

また障害の種類によって異なっており、たとえば精神障害の方についてはだいぶ活動が戻ってきている感じがある。コロナ対策についても、いかに感染しないように管理をするか、個人の意識レベルにも差があるため、それにより抵抗感を持ち、参加を見合わせている方も多い。コロナはだいぶ収束してきているが、まだ日常的に都の感染者数1500人の発表が出されてしまうと、いつ開始していいのか判断がつかないため、足踏みしている方が多くみられる。難しいかもしれないが、なにか開始にあたっての基準などを出していただければ、みなさんも活動がしやすいと思う。

・区青少年育成委員会

青少年育成委員会は、各出張所ごとに10カ所あるが、映画会や、集まって講習をするような活動はできているが、体を動かすような活動がなかなかできていない状況。また、個人の話になるが、土曜日に子どもを集めて校庭解放を3回ほど実施している。そのなかで子どもが遊ぶとなると、ドッチボールに偏ってしまう。運動が苦手な子は、紙でタコを作ったりして遊ぶのだが、運動が苦手な子、好きな子に分かれていることに気が付いた。屋外での活動において、1割程度はマスクをはずしているが、まだ多くはマスクをしっかりとつけている。個人的に新宿スポーツセンターの自由参加教室で、ヒップホップダンスに2回ほど参加している。とてもハードで、たった45分をフルに

動くが、ぜんぜんついていけない。ただ汗だくだくで終わったあとの爽快感が気持ち良く、こういった感覚を久しぶりに感じた。よく小中学生でダンスをしている子もいるが、ダンスはフルに体を動かすことに有効であると実感した。自分も体を動かしてみて、できるできないということよりも、積み上げていくと身についていくこともあるということも体験したので、運動が苦手な子へのアプローチについても勉強ができた。育成委員会も、どこかへ出かけるという行事が多いが、ダイナミックに体を動かすような機会がないので、そのような仕掛けを作っていけたらいいなと感じている。

・藤原委員

障害が重い子どもたちも、コロナ禍でなかなか体を動かせない状況が続いた。もともとスポーツをするという概念自体がないに等しかった障害の重い子どもたちだったが、私たちの活動で18歳以上を対象に生涯学習支援として、特別支援学校で行われていた集団スポーツである、ハンドサッカーを昨年夏から養護学校の協力で再開することができた。新宿の場合は新宿養護学校の卒業後、肢体不自由児は永福学園に通うが、永福学園を卒業した後、生活介護事業所に行く子どもたちはスポーツをする環境がなかったのだが、私たちのNPOの活動により、新宿養護学校の協力もいただき、いまは定期的に活動がすることができている。活気のある子どもたちの明るい表情をみると、机の上だけではないと強く感じる。

10月に新国立競技場でクリアソン新宿の試合があった。新宿区障害者福祉協会さんがクリアソン新宿のオフィシャルパートナーとなった経緯から、車いす席の団体席を用意していただいた。新国立競技場はもちろん、スポーツ自体を見るのが初めてというお子さんがほとんどで、またそのお子さんの家族も来られて総勢42名で観戦をした。久しぶりに新宿が一体となってひとつものに向かって応援をしていることが、手に取るように見えたので、クリアソン新宿の活動に感謝をしている。また選手の方々が直接、子どもたちと触れ合う機会も作っていただいた。まだJFLであるが、我々にとってはプロスポーツに限りなく近い認識で選手たちを見ることができるので、今後も一体となった競技活動の実現は障害のある子どもたちも積極的に関わっていける配慮があれば不可能ではないと実感した。来年もできればやりたいとクリアソン新宿さんも言っているようなので、引き続き応援していきたい。

・スポーツ事業者

昨年4月より新宿スポーツセンター指定管理者としての我々の運営が始まったが、コロナの影響で人数制限や時短、休館が多い一年を過ごした。昨年10月末より時短営業の緩和と、徐々にコロナウイルスの減少により今年度からしっかりとした運営ができていると感じる。個人利用も団体利用も、来館者人数も増加傾向になり、教室事業についても、主にお子様の教室については定員数を増やして行っている。ただし個人利用も団体利用も、新宿スポーツセンターのピーク時の来館者数に比べるとまだ劣っている部分もある。イベント事業については、まだ大掛かりなイベントの開催は厳しい状況にあるため、近隣の戸山公園さんやオレンジコートショッピングセンターさんと協力しながら、屋外でできる20-30名程度のイベントをスポットで開催をしている。

今年度は大規模改修が始まり、皆様にご不便をおかけすることもあると思うが、ご了承いただきたい。まだまだ感染者数者落ち着いていないが、利用者様に安心してご利用いただけるような施設運営をしていくのでよろしくお願ひしたい。

・区中学校 PTA 協議会

報告は3点ある。まず1点目は、子どもたちは休みの日にはラウンドワンというスポーツ総合施設の、スポッチャで、高いお金を払って体を動かしている。新宿区には、コズミックセンターや新宿スポーツセンター、大久保スポーツプラザなどの施設があるが、子どもたちの認識が低い。また実際に使いたいと思っても、団体で入っていたり、いろいろな制約があるため、なかなか中学生がちょっと運動したいと思っても、気軽に使えないし、楽しめる施設が少ない。そうすると、ラウンドワンに行って体を動かして楽しむという方向にいつてしまう。また区立西戸山公園に、壁打ちテニスができるスペースがあり、よく利用させていただくが、コートが凸凹していてバウンドが違ふところについてしまうため、うまく練習ができないと子どもたちが嘆いているので、そういったところの整備をお願いしたい。また高田馬場三丁目にある宮田橋公園では、金網のフェンスがあり、バスケや野球をしている子どもたちがいて、ボール遊びも十分に行える。ただ、そういった恵まれた施設が他にはなく、他の利用者に気を使いながら利用するような状況。せっかく戸山公園など広い公園があるので、子どもたちが高いお金を払ってラウンドワンに行かなくてもいいように、せっかくある施設を有効活用していただきたい。また、神田川の遊歩道にストレッチ遊具があるが、学校にも工夫をして取り入れていただくと子どもたちは休み時間などにも使用することができるので、そういった利活用を検討していただきたい。

2点目は、部活動について。新宿西戸山中学校では、先生の人数が足りておらず、副校長先生が臨時で1年生の理科の授業を行っているほど、先生が授業で手一杯の状況。テニス部では、部活動をするのにも、先生の会議が終わるまで待たないと活動ができず、ラケットやシューズを持ちながらそのまま家に帰ったということもある。いまは外部指導員の方が入ってくださっているが、平日は仕事があるため来られず、土日も先生が出勤できない場合は保険の関係上、外部指導員が入っても部活動ができないという状況。先生の働き方改革という動きがあるが、保険の活用についても幅広く考えていただけると、もう少し有意義な改革になるかと思うので提案させていただきたい。

3点目は、子どもたちは体を動かしたい意欲があるのだが、いまはどちらかというと勉強が主体の生活スタイルになってしまっている。せっかく区内には充実した施設があるので、中学生でも楽しめそうな内容にしたスポーツ施設の紹介であったり、中学生が体力をつけられると思うような分かりやすいPRや宣伝を、中学校内にしてもらえると、子どもたちに良いかと思うので、検討をお願いしたい。

・区小学校 PTA 連合会

10月以降の取り組みであるが、先ほどからお話に出ている、10/9 クリアソンの試合では、教育委員会の協力をいただき、優待席を1000席用意いただき、完売した。当日子どもたちのイベントもあり、楽しむことができた。また、10/16にはソフトボール大会を3年ぶりに開催できた。11/19-20 バレーボール連盟の協力をいただき、バレーボール大会を3年ぶりに実施予定である。1/15は卓球連盟のご協力のもと、卓球大会を実施予定である。年明け1/29のシティハーフマラソンでステージパフォーマンスの募集をしている。例年に近い形に戻って活動を始めているところである。

・区レクリエーション協会

レクリエーション協会も、コロナ禍で活動ができないでいたが、3つだけ開催できた。1つはレクリエーションフォーラム。昨年は四谷スポーツスクエアで開催し、内容は大きく変わらないが、講演は障害者サッカーについて徳堂委員にお話しいただき、疑似体験では自閉症の方が作成をしたDVDにより、光の見え方、音の聞こえ方の体験をしていただいた。その後は、手をつなぐ親の会による体験をさせてもらった。昨年は、本人がレストランのバイトで指示の出され方で困った経験などを話してくれた。今年は、ダウン症の方が発表してくれる予定。講演は藤原委員にお話しいただく予定である。

2つ目は、都立支援学校の活動支援事業において、レクリエーションスポーツを実施する予定であったが、コロナ禍であったため、オンライン実施の提案を受けて2回ほど実施した。初めてだったので、手元をタブレットで映すような予行練習も行い、ボッチャをオンラインで行った。ランプの角度や高さをオンラインで本人と調整しながら、ボールを転がして行ってみたところ、本人はおもしろかったようであった。コロナ禍で会場に来ることができなくても、遠隔操作で体験ができるのだということが今回実感できた。コロナのおかげで気が付けた。

3つ目、遊びの達人講座では、ベーゴマやけん玉やおはじきなど、昔の遊びコーナーを作った。指導者がいるわけではないが、参加者同士で教えあっていた。そういったつながりも良いと思った。

個人的には、落合第一地区では例年10月の第二日曜日は大運動会を行っているが、コロナのため今年も中止になった。その代替として、各町会で参加者を募り、みんなでクリアソンの応援にいった。80歳のおばあちゃんから小さい子も来て、楽しい新国立競技場が体験できた。スポーツ関係団体ではなくても、そういった提案をして、経験を試みるのも良いと思った。クリアソン新宿の応援団が増えれば良いと思う。

・学識経験者コメント

コロナによって、スポーツ環境がかなり損なわれたと思う。また、何年もかけてオリパラに向けて、気運醸成のため動いていたと思うが、それが無観客になったり、いろいろなことが思い通りにいかなくなったと思う。お話を聞いていると、社会的に弱い立場にある、障害者の方や、高齢者の方、子どもたちなどに特にしわ寄せがきているのだと感じた。そもそもスポーツ以外のところで、家から出てはいけぬ、マスクをしなくてはいい、などいろいろなことが制限されていて、まずは外に出ようというところからやり直さないといいぬと思う。いきなり、スポーツをやりましょうといっても難しいので、なにか楽しいことを提案して、引きこもっている人たちをどうやって出していくかの発想が大事。新宿区には恵まれた施設がある。私は一年間、琵琶湖の近くのびわこ成蹊スポーツ大学で働いていた。自然はたくさんあるが、施設は少ない。新宿には、スポーツセンターや、ラウンドワン、新国立競技場がある。それらをうまく活用し、またニーズも多様であるため、どれか一つではなく、いろいろなメニューを用意して、みんな家から出よう、足を運んでみよう、激しい運動でなくもいいので体を動かそう、という環境作りから始めてはどうか。そのうえで各団体の取柄をいかしたプログラムを考えていただき、コロナ前に戻すということではなく、ポストコロナのステージに向けて、新しい次の環境作りを目指してみてもどうかと感じた。

イ 各課での取り組みについて

・生涯学習スポーツ課

4点報告がある。1点目は、昨年開催した東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレ

ガシーの一環として、令和4年4月から、障害者の方の新宿区スポーツ施設について利用料金を無料とした。他の自治体でも同様の取り組みをしているが、新宿区では団体での利用も対象となる。先ほども徳堂委員からいつから開始してよいのかというご意見があったが、これをきっかけに、新宿区のスポーツ施設を活用していただけることを願っている。

2点目は、新宿区ではスポーツにおいて優秀な成績を収めた方に、新宿区スポーツ栄誉賞を授与している。昨年度は、東京2020オリンピックの陸上競技、中距離で活躍された、ト部蘭選手、パラリンピックの陸上競技、走幅跳で活躍された高桑早生選手の2名の方に、昨年12月に授与させていただいた。また、今年2月の北京冬季オリンピックのフィギュアスケートにおいて、銅メダルを獲得された樋口新葉選手に、先日の10月10日、新宿コズミックセンターで開催された「新宿スポレク2022」のオープニングセレモニーの中で表彰式を行い、授与させていただいた。これにより新宿区スポーツ栄誉賞受賞者は5名となった。

3点目は、子ども・成人向けのスポーツ体験イベントですが、昨年度はコロナ禍によりなかなか開催ができなかった。このイベントは、吉本興業に業務委託をして実施しているが、今年度は8月にスタートして、これまでバスケ、陸上、体操の教室を行うことができた。特に、子ども向けイベントは定員が60名のところ、申込みが300名を超える状況となっている。次回、10月30日には、スポーツ栄誉賞を授与したト部蘭選手を講師に陸上教室を開催予定である。

4点目は、先程から委員の皆様からもお話が出ておりました、新宿区サッカー協会の代表チームであるクリアソン新宿について。新宿区とは包括連携協定を結んでおり、グローバルカップという各国の子どもたちが集まるフットサルのイベントや、新宿こどもまつりなどのイベントを企業の協力を受けながら開催していただいている。新宿区としては、広報や練習会場の確保などの支援を行っている。10月9日には新国立競技場での試合を開催し、JFL史上最高入場者数である16,218名を記録した。新宿区としては、引き続き応援していく。

・新宿未来創造財団事務局長

4月から財団事務局長として着任した。3月までは、区のオリンピック・パラリンピック競技大会開催担当部長であった。財団としては、さまざまな事業を展開しており、スポーツにももちろん力を入れている。関係団体の皆様と一緒に、いまの落ち込んでいる雰囲気スポーツの力で、新宿の街を元気にしていけるような取り組みをしていきたい。

・新宿未来創造財団担当課長

この会議には初めて参加するが、「スポーツ環境整備方針」には、財団は区のスポーツ推進事業の担い手として積極的な区のスポーツ環境を推進すると、役目が明記されている。改めてその役割をしっかりと全うしていきたいと思っている。

財団は、新宿コズミックスポーツセンター、大久保スポーツプラザ、四谷スポーツスクエアといった屋内施設や、野球場、テニスコートなどの屋外施設など、さまざまなスポーツ施設を新宿区から指定管理を受けて運営を行っている。この2年間、スポーツ施設は利用休止期間もあったが、その後再開をして進めてきた。屋外と屋内で比較すると、屋外施設のほうが利用者数は戻っているが、それでもまだコロナ前には戻っていない。屋内施設については、今年度に入り、ようやくコロナ前の数字に近づいてきているが、まだ利用者数は戻っていない状況である。そのような中、財団のス

スポーツ関連のイベントとしては、毎年恒例でスポーツの日に開催していた、「新宿スポレク」を3年ぶりに開催できた。コズミックスポーツセンター、新宿スポーツセンターを会場に6,300人の入場者数であった。3年前は7,600名の入場者数だったので、そこまでは届かなかったが、久しぶりの大きなイベントで多くの方に来場いただき、施設の役割として区民の方に求められていると実感した。最後に、3年ぶりに新宿シティハーフマラソンを1/29に実施する。今回は第20回の記念大会となり、新国立競技場をスタート・ゴールとする。さらに新たにハーフマラソンコースを神楽坂まで伸ばすコースとなっている。10月末までエントリー可能なので、是非皆様のご参加もお願いしたい。

・障害者福祉課

2点報告。1点目は、障害者福祉としては、3年に1回、障害者の当事者の方に向けた調査を行っているが今年が調査を実施する年となっている。その調査項目の中に、「スポーツをどのようにしているか」という質問項目を入れた。それにより、障害者の方がスポーツに対してどのように考えているかを伺いたい。その調査結果は来年度作成する「新宿区障害福祉計画」で反映できればと思っている。

2点目。デフリンピックという聴覚障害者の方の競技大会が、2025年に東京での開催が決まっている。もともとデフリンピックのほうがパラリンピックよりも先に始まっており、聴覚障害なので、スタートの音は聞こえないが、それ以外は健常者と同じのため、聴覚障害者のための大会として独自に発展してきた。いまはパラリンピックのほうが有名になっているが、デフリンピックも長い歴史のある大会。この大会がはじめて日本で、そして東京での開催が決まり、聴覚障害への理解が進む良い機会だと思っており、また聴覚障害以外の障害の方についても、理解を深める良いきっかけになればと思っている。

・地域包括ケア推進課

「新宿いきいき体操」について、サポーターの方の養成講習会や研修機会をつくり、普及啓発を行っている。先週3年ぶりに開催が実現した敬老会において、いきいき体操サポーターさんによりデモンストレーションを行い、ご来場のほとんどの方が座りながら参加していただき、「いきいき体操」をご存知の方が着実に増えていることを実感している。また「新宿スポレク」でもデモンストレーションをご披露いただき、地域での介護予防への取り組みが広がっている。

そのほか高齢者クラブにも様々な形で支援をしており、さきほどお話に出た、グラウンドゴルフやボッチャへの支援も行っている。こういった取り組みにより、高齢者の方が地域でスポーツに親しみながら、いつまでも元気でいられるように環境作りを進めていきたい。

また3年に一度、高齢者保健福祉計画を作成している。今年度は調査の年となっており、来年度の次期計画の作成に向けて、現在、高齢者の保健と福祉に関する調査を実施している。「いきいき体操」等に積極的に参加されている方がいらっしゃる一方で、新型コロナウイルスの流行もあり、こういった場になかなか出てこれないという方も増えている状況もある。こういった方々に対して行政がどのように普及啓発を行っていくかが重要であると考えている。今回の調査結果はまだ出ていないが、過去の新型コロナウイルス感染症による外出自粛に関する調査結果により、地域のなかでの声掛けによって参加する方が増えることも分かっているので、本日お集まりいただいている

委員の皆様のお力を借りながら、区民同士の口コミ情報などによって参加率を高めていきたいと思っている。

・子ども家庭課

子ども家庭課が支援をしている、青少年育成委員会では、さきほどお話があったように、映画会の鑑賞や工作ワークショップといったような、静かな遊びについては活動がされているが、大きく体を動かすような活動には、まだまだ昔のように戻っていない現状である。

区内には 20 カ所の児童館・児童コーナーとよばれる屋内施設があるが、ここでは一年前から活動が少しずつ再開し、現在は子どもたちの希望に合わせて、ダンスや一輪車、ドッジボール、卓球など、施設ごとにクラブ活動と称して、屋内でできる動的な活動ができるように戻ってきている。

中学生についてのお話が先ほど出たが、児童館・児童コーナーの施設特性にもよるが、中学生が屋上にあるバスケットリングを使って遊んでいる児童館もあるので、是非一度、近所にある児童館をのぞいてみてほしい。自分に合うメニューがあるかどうか、選択肢に入れていただきたい。

・健康政策課

「健康ポイント事業」という健康部の事業を紹介する。これは気軽に健康づくりに取り組んでいただくために、歩くことが大事であるという考えからはじまった事業。8,000 歩程度歩くと生活習慣病の予防にも効果があるという根拠もあり、区民の皆様気軽に歩いていただくことを目的としている。スマホにアプリをダウンロードしていただき、もしくは、歩数計により、歩いた歩数によりポイントが付き、ポイントの数によって景品がもらえるという事業内容となっている。そしてせっかく歩くのであれば、楽しく歩いていただけるように、各地域のウォーキングマップも作りながら取り組みを進めている。コロナ禍においては、みんなで歩くことはできないが、ひとりで歩くことならできるということから参加者も増え、令和3年度は5,000 人の参加があった。ひとりでの参加であればどのような状況でも可能であるということ。今後も努力して普及啓発を進めたい。

・みどり公園課

最初に、本日いただいた意見でお答えできる部分についてお話しする。区立公園は180 園ある。グラウンドゴルフなど時間や日にちなど調整をお願いしながら使用をいただいているので、さきほどポッチャのできる場所ということであれば、みどり公園課にご相談いただければと思う。また障害のある方への対応としては、新宿中央公園には、例えば、ブランコにベルトを付けたり、寝そべって遊べるような、インクルーシブの視点での遊具の提供を 10 月からオープンしている。今後もバリアフリーだけではなく、そういった視点で展開をしていきたい。また、ボールを使った競技ができる場所ということでは、新宿の公園は狭いため、ボール遊びを可能にするにはネットフェンスをつける必要がある。現状バスケットボールができる公園が9 園、フットサルが2 園、キャッチボール 12 園となっており、まだまだ少なく整備が追い付かない状況である。今後も引き続きできるかぎり数を増やせるように整備していきたい。また、健康遊具がある公園は 30 園あるが、こちらも改修のタイミングなどで健康遊具なども増やしていきたいと考えている。

最後に、新宿中央公園ではカフェなど民間の活用も行っているが、その中で民間のフィットネスクラブの活用もある。そのフィットネスクラブは、そこだけで運営をするのではなく、公園を使

って、例えばボルダリング教室やヨガ教室など、いろいろなスポーツが公園のなかでできる取り組みもしているので、また今後も取り組みについてご報告していきたい。

・教育調整課

教育委員会からは2点。1つ目は、学校における取り組みについて、2つ目は、本日資料でお配りしている、部活動支援の一部民間委託化について説明したい。

令和2年度及び3年度は、コロナ禍においてさまざまな制約が課されていた。例えば、運動会の中止や、または保護者の参加もなく、学年を分けて実施するような状況であった。体育の授業についても、子どもたち同士の接触機会をなるべく少なくするために距離をとったり、水泳指導ではクラスを分けて行うなどの対応がとられていた。今年度に入ってから、教育活動を昔のように戻していく方向で、感染リスクが高いと言われていたスキー教室についても現在検討しているところである。

また、いままで各障害者競技団体や社会福祉協議会と連携をしながら進めてきた障害者理解教育を踏まえ、昨年度新宿区の子どもたちは、東京2020パラリンピック大会の学校連携観戦に参加した。小学校中学校合わせて約4,400人の児童生徒が参加した。昨年9月はちょうど新型コロナ第5波のタイミングであり、コロナと熱中症の対策を徹底しながらの実施となった。障害者スポーツ体験を行ってきたこれまでの障害者理解教育を踏まえてパラリンピック観戦ができたことは、かけがえのない、記憶に残る経験となったと思う。参加した子どもたちからは、「自分の記録に挑戦し続けるパラリンピアンに感動した。」といった声が多くあがった。また「当日会場で手を振ってくれた大会ボランティアの方を見て、自分も大人になったらボランティアとして参加したい。」といった感想も聞かれた。また学校では、パラリンピック観戦に参加しなかった子どもたちに対して、その心情に配慮した取り組みが行われた。例えば、ある小学校では、学校連携観戦の当日を「パラリンピック教育の日」と名付け、観戦に参加しなかった子どもたちは、学校でボッチャ大会を行うなどの活動を行い、楽しみながらパラリンピックの学習を行った。また中学校においても、参加した生徒がオリンピックスタジアムで撮影した画像等を使ってプレゼンテーションを作成し、参加していない生徒へ向けて紹介を行い、当日の観戦の雰囲気や様子を共有できるような取り組みを行った学校もある。新宿区立の学校では、今後も継続して障害者スポーツ体験を全校、全園で実施し、大会のレガシーとして継承して取り組んでいきたいと考えている。コロナ禍の3年目を迎えた今年度は、ようやく日常に戻りつつあるが、また活動ができない状況になってしまうと子どもたちの今後の体力低下に繋がるため、できることから始めていき、できる限り継続していきたい。

続いて、部活動支援の一部民営化については、教育支援課教育活動支援係よりご説明する。

・教育支援課

部活動については、議論の中にも出てきており、注目度は高いと感じている。この間、東京都や国でも地域部活動について動きが活発になっているが、新宿区においては、平成30年6月に「新宿区部活動ガイドライン」を策定し、これまで取り組みを進めている。具体的には令和元年度から会計年度任用職員という、公務員と同じ待遇の職員を採用し、需要のある中学校の部活動に対して配置をしてきている。これについては課題もあり、1つは学校側の問題として、主要な先生が異動されてしまうとその部活が継続困難になってしまったり、または部活動を指導したいが、子育てや

介護などにより先生の指導時間が十分に確保できないこともある。また自分が未経験の種目を顧問しなくてはいけない場合は、先生方の負担感も非常に高いという現状もある。次に、教育委員会側の問題としては、会計年度任用職員で部活動指導員を採用しているが、ほとんどの方が兼業されているため、平日の2〜3時間のために、部活動支援を優先していただくことが難しく、なかなか指導に行くことができない。また部活動指導員よりも、良い雇用条件があれば、そちらに移ってしまうこともあった。そのため、安定的に継続的に部活動支援をしていくことが難しいという課題があった。これらを解決するため、今年度は民間提案制度を採り入れた。民間提案制度自体は、行政管理課が主管であるが、これは新宿区の様々な行政課題を各部署が挙げ、それに対して民間事業者から解決のご提案をいただき、区が検証し、採用をする制度である。部活動支援についてもこれを活用し、民間事業者の提案を募集した。その結果が資料のとおりである。3社からの応募をいただき、そのうち2社を採用している。1社は不採用となっているが、提案内容が悪かったということではなく、実現可能性のところで落選をした。提案の中身はどれもよいものであった。来年度より民間提案制度を受け、会計年度任用職員の一部を減らし、事業者から指導員を派遣することになる。そのため12月〜1月には請け負っていただく事業者の選定を予定しており、順調に進めば来年4月からは事業者からの外部指導員を学校に配置し、先生の働き方を改革するとともに、質の高い指導者の配置、魅力ある部活動、ひいては、魅力ある学校づくりに寄与していきたいと考えている。

・学識経験者コメント

部活動については、スポーツ庁では、中学校体育連盟における各競技の全国大会を廃止しようという話が出ている。全国大会とは甲子園のように、部活動で日本一を目指す大会。そのために毎日練習をし、土日も相当な時間を割くことによって、それが顧問の先生方の多忙化を招いている問題もある。先生方は、競技大会へ帯同するだけではなく、運営も行わなければならない。なお、アメリカやヨーロッパなどでは中学生にそういった大会はない。そして大会はトーナメント方式であるため、どれだけ練習しても、一回戦で負けたら終わり。そのため、勝たなくてはいけなくなるので、補欠は出ることもできず、試合もできないという子どもたちもたくさんいる。このようなやり方が適しているのか、スポーツ庁が全国中学校体育連盟と本気で議論を始めている。すでに、全国柔道連盟では、小学校の全国大会はやめることになっており、それくらい大きな改革が動いている。

一方で、やりたいのにできない、もっとやりたいという子どもたちの受け皿としては、学校の先生がほとんどボランティアに近い仕組みで対応することで活動が成り立っている。学校の先生はブラック職場となり、教員のなり手がいない状況。横浜市の教育委員を2期8年つとめていたが、ついに教員募集は2倍を切る状況であり、これは受験者がほとんど合格してしまうということである。そんな時代まで来ている。部活動も大事ではあるが、学校の本質は授業なので、そこに立ち返ろうと、文部科学省が本気で取り組んでいる。では、誰が担うのか、という受け皿の仕組みづくりは経済産業省が取り組んでいる。そこでは、NPO法人も含めた民営化を検討しているが、新宿区のように民営化への予算にここまで使える自治体であれば民営化で請け負ってくれる事業者もいると思うが、他の自治体ではそんな予算は賄えないため四苦八苦している。いずれにしても、無償で先生が放課後に部活を見てくれる時代から、これから放課後は学校から切り離して、子どもたちのスポーツ環境を全く新たに整備していこう、と政府では検討されている。スポーツ庁、文部科学省、経済産業省で利権争いをしているように見えるかもしれないが、実は根っこでは繋がっており、制

度を変える検討と、受け皿をつくる検討とそれぞれ役割を分けて進められている。

新宿区は資源も財政も恵まれているため、「新宿型の部活動」を目指してみても良いと思う。ゆくゆくは、中学校・高校の公立、私立も含めた、在り方の検討が始まっていくと思うが、いまはその過渡期であり、ピリオドではない。先日、スポーツ庁と経済産業省と YouTube 配信を行ったが、そのなかで新しい言葉として「学校不動産」というものが出てきた。学校という不動産を活用して、子どもたちのスポーツ環境や地域の人々の豊かな暮らしをどう作っていくかを考えていくもの。例えば、おやじバンドをやる場所を探しているなら視聴覚教室を使えばいい、料理教室をやりたいなら調理実習室を使える。児童館や社会福祉施設などたくさん行政施設があるなかで、学校は学校として単一目的として使われてきたが、学校を不動産としてみんなで活用していくことを考えようと、政府が言い始めている。新宿区にある学校施設は子どもの足でも通いやすい場所にあるわけだが、かつての池田小事件等の事例から、子どもしかいないところで不特定多数の人が入ると危ないという認識のもと、管理隔離されてきた。これをもっと開いてどう活用していこうかという検討に変わってきている。このなかの一つとして、小中高生の子どもたちのスポーツ環境をどうしていくかという問題に対して行政は懸命に対応している。新宿区としては5年10年先を見越して手掛けていければよいと思う。幸い、スポーツ環境という名目で、各課の課長さんがお忙しい中集まる場があるので、スポーツ環境という言葉の意味をもっと広く持っていただけたら良いと思う。スポーツという言葉の語源はもともとラテン語で、「デポルターレ」と言う。「デ」は離れる。「ポルターレ」は港。つまり「日常から離れて気晴らしをする」ということ。もしかすると、古代ローマの人は歌を歌うこともデポルターレだったかもしれないし、お芝居をすることもデポルターレだったかもしれない。それが近代オリンピックのなかでスポーツという限られた意として捉えられてしまっているが、もっと広く捉えて、学校不動産を活用したり、新宿区が持っている様々な公共施設や、民間事業者・民間団体の力を借りて、コロナで冷え切って、閉じこもっている方々を、どうやって温めて、外に出ていけるようにするかを、考えていただければと思う。

・意見交換等

【区中学校 PTA 協議会】

部活動の説明について質問。来年度、民間の指導員が入ることによって、いまの顧問の先生とは、どのように連携をとっていくのか。

【教育支援課】

学校の部活動のため、基本的には顧問の先生が同席することが原則であるが、それを徹底してしまうと先生の働き方の改革にならないので、いま検討しているのは、民間提案制度に基づいて配置した指導員については、一定程度の条件を満たしている部活に対しては、顧問の先生がいなくても外部指導員単独で活動ができるようにしていきたいと考えている。

【学識経験者】

顧問の先生がいないと対外試合ができないというのもおかしな話だと思っている。そういったところの規制緩和や、また現在、日本スポーツ振興センターの保険の制約によって、子どもたちだけの活動に保険の適応ができないことになっており、それにより万が一事故があった時の責任を誰が

とるのかという問題もある。そのような問題も、すべて見直す準備が進められている。また、どうしても指導をやりたいという先生がいる場合については、兼業を認めることも検討がされている。公務員ではなかなか兼業は認められないのだが、就業時間が終わった後に、地域の子どもたちを教えて、アルバイト代をもらってもいいという方向で、整備が進められている。

【区中学校 PTA 協議会】

安心した。先生方によっては、熱く指導をしてくださる方もいて、完全に切り離されてしまうのは保護者としても心配だったので、そのあたりも検討されているのであれば安心して見守れる。

(4) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催後の変化・今後の取り組みについて

【学識経験者】

「オリンピックレガシー」という本も出しているが、「レガシー」と言っても、良いものだけではなく、負のレガシーもある。また、長期的に見ないとわからないところもある。1964年の東京オリンピックのレガシーとして、東海道新幹線や首都高速道路など、いまでも私たちの生活にいろいろなものが実際に残っていると思う。なので新宿区としてもこの1年だけではなく、3年、5年、10年かけて、良かったものを正のレガシーとして、どう伸ばしていくか。また反対にネガティブなこともあったと思う。そこに目をそらさず、どう最小化していくか、長引かないようにするのかを考えていかなければいけないと思う。地方の都市ではキャンプがなくなってしまうたり、いろいろ準備してきたものがすべて中止になってしまったという自治体が多い中で、お話を聞いていると新宿区は良いものがたくさん残った自治体なのだと思うので、正のレガシーを多く伸ばしていければ良いと思う。

【区レクリエーション協会】

教育委員会でも、幼稚園にボッチャの普及で回っていたと思うが、いま3年ほど経って、ほとんどの子がボッチャのことを知っている状況となっており、変わってきたことを実感している。これからの子どもたちにはボッチャはどんどん普及されていくと思う。

【区中学校 PTA 協議会】

中学校でも、学校の取り組みで3年前から生徒会が中心となってボッチャが行われており、いまでは全校生徒が知っているような状況である。

【区スポーツ推進委員協議会】

ボッチャについては、スポーツ推進委員では現在、年齢別の大会を自主事業として実施することを検討している。小学生ボッチャ大会を開催し、さらにボッチャをより広めていければと思っている。遊びというよりも、少し競技性も持たせるなどアイデアを入れて進めていく予定。今年はプレ大会を行い、来年に本大会の開催を目途としている。せっかく新宿区にある資源を使ってパラスポーツ広めていければと思っている。皆様にもお声がけをさせていただく。

【教育調整課】

先ほど、間野教授からもお話があったが、障害者スポーツ体験については、オリパラを機に取り入れて実施してきているものを、大会終了後も引き続き実施している。先ほどお話に出たように、幼稚園ではボッチャ一択であるが、小学生ではゴールボール、ブラインドサッカー、車いすバスケットボール、ボッチャ、シッティングバレーボールを学校ごとに種目を変えて取り組んでいる。この取り組みを今後も続けていけば、学校の中で当たり前のように慣れ親しんだ子どもたちが大人になって、次の世代の子どもたちがまた当たり前のように体験をしていく。こういったことを通じて、障害者理解教育をさらに深めていくことに繋がっていくと考えている。パラリンピック大会の学校観戦に参加したのは、23区では、新宿区、杉並区、渋谷区のみであった。無観客で開催された大会であったが、そのなかで実際に観戦をした子どもたちが新宿区には多くいるので、この体験を通じて、将来のあらゆる活動に繋がっていくことを期待している。

【区高齢者クラブ連合会】

ボッチャは3年ほど前から、やってみたいという声が出ているが、環境が整わない状況である。借りるところも分からず、またボッチャセットも購入しようとする高価であるため、各クラブ単位の会費で賄わなければいけないとなると難しい。また購入しても、使えずに箱のまま保管している状態。金子委員に教えてもらいながら、落合第一地域センターでやる時は、普通のスポーツ大会よりもみんな盛り上がっている。ただ、ルールなどを引き継いで自分たちでできるかという点、我々も素人のため開催ができない。そのため、いまのこの状況をなんとか前に進めるために、話し合っているところである。港区・中央区は盛んにボッチャが行われており、今年も3区でボッチャ大会の開催に向けて進めていたのだが、結果的にコロナにより中止になってしまった。また高齢者は1kmを歩くのが大変なので、地域センターごとに実施できることが望ましいがこの課題をどうクリアするかが課題。高齢者は60代、70代、80代で体力の差が大きい。現実的にクラブの方は80代の方が大半。自分が2.4km歩けたことにびっくりしている方もいた。難しいかもしれないが、地域ごとに体力測定の先生に来ていただいて、ご自身の体力がどのくらいあるのかを教えてあげたいと考えている。

【区レクリエーション協会】

ボッチャについては各地域センターがほとんど持っている。地域交流館でやっている方も増えている。

体力測定は、地域センターまつりでも実施しているが、新宿区には、「いきいき体操」と「100トレ」と「ごっくん体操」の3つがある。100トレは100歳まで自分の足で歩こうという筋力トレーニングであるが、これをやる時も3種類くらい体力測定をやると3か月くらいで自分がどれだけ伸びたかを実感できる。新宿区はこの3つの体操の所管部署は違うが今後協力して進めていくことになっていると思う。

【地域包括ケア推進課】

地域包括ケア推進課では、新宿区オリジナルの「いきいき体操」と、咀嚼嚥下障害予防の「ごっくん体操」と、体に負荷をかけて筋力をトレーニングしていく「100トレ」の3つの体操・トレーニングがある。今までは所管の部がバラバラで動いていたが、現在実行計画のなかで3つの体操・トレーニングについて一体的に周

知することとしている。例えば、連携してチラシやグッズを作成して紹介をしている。また、それぞれの体操やトレーニングをやっている方々に対して基礎知識を共有していただけるように、来年以降には3つの体操・トレーニングの体験会や内容を紹介するための研修会を一般の方に向けて開催する。それにより、入り口として体操を体験し、知識をつけていただいたうえで、ご自身にあった体操や、どんなものをやりたいかを実感していただき、その後はそれぞれの専門のトレーニングに参加していただければと考えている。また連携することで、いきいき体操のなかでごっくん体操のやり方を取り入れたり、その逆もできるように、進めているところである。

またボッチャについては、地域交流館ではたしかにボッチャをおこなっている方は多い。道具の購入については、高齢者クラブに助成金の制度もあるのでぜひ活用を検討していただきたい。

【区障害者団体連絡協議会】

障害がある方々にとっては、パラリンピックというのは身体障害がある方の競技大会というイメージがある。基本的には大会に出るということ以前に、自分たちがスポーツを楽しむためにいろいろな種目が生まれてきて、それを一般の方たちが見て、種目によってはボッチャのように誰でも一緒に楽しむことができるような競技があって、一緒にやることで障害者にもすごく上手な方がいたりして、そのような形で障害者の方と一緒にやることで障害者への理解に繋がっていくのではないかと思う。

レガシーとしては、パラリンピックによっていろいろな競技を見てもらうことができたと思うので、今度は繋げていく、続けていく、ということが大事だと思っている。できることであれば、高齢の方もだが、障害当事者の方も、そういった場に出て行って、一緒に交じり合いながら、スポーツをやる機会を増やしていくことで、本来のパラスポーツの素晴らしさをもっと広まっていくのではないかとお話を聞いていて思った。また、パラリンピックの種目に選ばれなかった競技もたくさんある。それによって世間への認知に差ができたと思う。また選ばれた競技もその時は国からお金が導入されて、すごく盛り上がったが、終わったとたんになくなって苦労しているという話もある。パラ種目以外のスポーツでも、知的障害の方も、身体障害以外の目に見えない障害のある方も一緒にスポーツを楽しむ環境というのもいろいろあるので、もっと知っていただける機会を新宿区でも取り組んでいただきたい。

【学識経験者】

いまの徳堂委員のご意見に非常に賛成している。いま、「ゆるスポーツ」という、例えばハンドソープボールという、石鹸を手につけてぬるぬるにして行うスポーツなど、ちょっとふざけたような、笑いながらできるスポーツということで、世界ゆるスポーツ協会という団体が、日本で活動されている。また「超人スポーツ」という新しいジャンルがある。パラリンピックだと動力なし競技になるが、これは動力付きのものであったり、プロジェクションマッピングを使ったり、新しいテクノロジーを使ったスポーツなどが最近できてきている。ボッチャも素晴らしいが、かつてのゲートボールのように、これしかないという状態になってしまうのが心配。いろいろな選択肢があってもいいはずなので、いろいろな多様性を認め合うということが東京2020大会のレガシーになるものだと考える。森元首相の件から、女性への意識は日本は相当遅れているということに気づかされ、障害や人種の違いも含め、単一民族同一国家から、多様性の方向へ進んでいくことがレガシーだと思う。超人スポーツもある、ゆるスポーツもある、パラ種目に選ばれていない他の競技もいろいろある、どれか一つにならず

に、多様性を認め合うような、様々な競技に目を向けられると良いと思う。

(5) その他

【区中学校 PTA 協議会】

今日は、障害者の方や、高齢者の方についてなど、いろいろなことを聞くことができた。子どもたちには、三世代交流の機会を増やしたり、もっとみなさんでできることが今後増えれば、子どもたちにとってはとても有意義になると思う。

(6) 閉会

5 行政からの連絡について

次回のスポーツ環境会議は2月頃を実施予定。日程、内容等は、決定次第お知らせする。